

かこれはいい方法はないものか。そこの点をひとつ、わかる範囲でお願いします。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） まず、1点目の商談会がなくなるのではないかという懸念をされているということですが、このことについては担当部長のほうからお答えをさせていただきます。

そして、しいたけの2点目のところは聞き取りにくかったんですけども、（「輸送、運賃の」と呼ぶ者あり）

○議長（小川 廣康君） 初村議員、許可とってお願いします。

○議員（14番 初村 久藏君） 運賃の補助関係です。

○議長（小川 廣康君） もう一度、大きな声でお願いします。

○議員（14番 初村 久藏君） 運賃の助成です。国境離島で今運賃の助成があつとるでしょう。その件です。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） しいたけ出荷に係る運賃でございますけども、これは有人国境離島法のほうで、我々としてはぜひしいたけのほうをやりたいんですけども、実は今、対馬のしいたけはヤマト運輸さんや郵便局のほうを使って直接出荷をしているということで、対馬から福岡に渡るまで、要するに海上運賃の料金が算定ができないというようなことで、今現在はまだ対象には含まれないということになっております。

そういうことでありますが、おっしゃられるように、我々もしいたけは対馬の産業として重要な産業でございますので、何とかしてこれができないものか、今後も研究を続けてまいりたいというふうに考えております。

○議長（小川 廣康君） 14番、初村久藏君。

○議員（14番 初村 久藏君） どうもありがとうございました。時間が私はとり過ぎて、坂本君の時間がありませんので、この辺でやめたいと思います。今後検討して、ぜひできるようにお願いしたいと思います。どうもありがとうございました。

○議長（小川 廣康君） 商談会の答弁は要りませんか。

○議員（14番 初村 久藏君） いいよ、時間がないです。聞きます、後で。どうもありがとうございました。

○議長（小川 廣康君） 続きまして、関連質問、新政会、1番、坂本充弘君。

○議員（1番 坂本 充弘君） 皆さん、おはようございます。新政会の坂本充弘でございます。ただいま会派代表質問で作元議員と初村議員が質問されましたので、私のほうは漁業振興について、その中で漁場環境の改善事業を中心にお尋ねをいたします。

近年は全島的に藻場の減少が進行し、磯焼け問題が深刻な状況となっております。この磯焼けの主な原因としては、藻食動物による摂食や海峡の変化等が考えられますが、対馬ではイスズミ、バリ、またガンガゼ等の藻食動物による摂食被害が急激に拡大していると推測されます。

藻場の保全再生による生態系の維持を図ることは、対馬の水産業を守る上でも重要かつ喫緊の課題です。漁業者、行政、関係機関等が連携し、対馬全体が一体となって藻場環境に影響を与える藻食動物の一斉駆除を実施し、海藻種苗の投入や磯焼けの原因に取り組んでいかなければならないと思っております。

水産業の各分野の共通課題としては、組織の経営基盤の強化、漁業就業者の確保・育成、漁場環境保全、漁業と海洋レジャーの調和、これはさきに組合長会と対馬の遊漁船業者との協定が結ばれているようです。そして、資源管理型漁業の推進、栽培漁業の振興、水産物の流通・消費対策など、どれをとっても重要課題が山積しております。

今年度の漁協の水揚げ状況を聞いてみますと、一本釣り漁業を初め、全ての魚種で昨年よりもかなり落ち込んでいるようです。きょうはその中でも漁場環境改善事業についてお尋ねいたします。よろしくお願いいたします。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 新政会、坂本議員の御質問にお答えいたします。

近年の漁場環境につきましては、藻場の衰退による磯焼けが顕在化し、深刻な問題となっております。藻場は沿岸環境を保全する重要な機能を持っておりまして、対馬の豊かな海の生態系を守り、将来にわたって持続可能な漁業を確立するためには、藻場の保全、回復は重要かつ喫緊の課題というふうに認識をしております。

磯焼け対策につきましては、今すぐにできる取り組みといたしまして、昨年度より離島漁業再生支援交付金や水産多面的機能発揮対策交付金を活用し、磯焼けの一因でもありますイスズミやアイゴ等の藻食性魚類の駆除について、全島横断的に連携した一斉駆除の取り組みを推進し、支援をしているところでございます。

また、連携した取り組みを推進する中で、漁業者皆様には積極的に藻場の保全、回復活動に参加していただき、水産多面的機能発揮対策事業におきましては、一昨年は4組の組織の活動にとどまっておりましたが、今年度は水域の監視活動なども含め19組織までふえ、取り組みがなされております。

離島漁業再生支援交付金の事業におきましては、島内12漁協の37集落が漁場の生産力向上を図るための取り組みがなされているところでございます。

このような既存の事業などを活用し、一体となった藻食性魚類の駆除の活動は、平成28年度は10集落でありましたけども、平成30年度は19集落にふえておりまして、今後も連携した

取り組みを推進し、活動組織の拡大を図り、駆除による藻場の回復、海藻の種苗投入による藻場の造成、サザエ、アワビの放流による資源の増大等に取り組んでまいりたいと考えております。

また、捕獲した藻食性魚類につきましては、食材利用も含め有効活用ができるよう調査研究に取り組んでおります。

さらに、資源回復の一環として、今年度より新たな計画において魚礁設置事業にも取り組んでおりまして、34年度までの5カ年間で全島21カ所の共同漁業権内に設置を予定しております。これにより高齢者にも優しい、効率操業、低コスト化につながるよう、漁場環境整備を目指してまいります。

磯焼けや水産資源の減少など悪化する漁場環境の改善につきましては、海洋環境の変化などもありまして、目に見える効果が少なく難しい課題でありますけれども、漁業集落や活動組織の御理解、御協力を得ながら、ことし10月に策定した対馬沿岸藻場再生計画に沿って、引き続き粘り強く取り組んでまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（小川 廣康君） 1番、坂本充弘君。

○議員（1番 坂本 充弘君） 取り組んでいただいているということで、こちらも安心しております。ただ現在までの効果、それは追跡調査等もあるとは思いますが、効果とか、そして市だけではなくて、水産業改良普及指導センター、ここの連携なんですけれども、一緒に合同調査等をやっていただいて、その成果を十分に発揮していただきたいと思っているんですけれども、その辺はいかがでしょうか。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 実は先週の日曜日に対馬学フォーラムを実施した際に、対馬市の漁業研修会を開催いたしまして、この藻場の磯焼け対策について、いろいろと報告会をしていただいたり、皆様からの意見をいただいたところでございます。

そういう中で、振興局の水産改良普及所の方からも、そういったことで発表をしていただきました。漁協関係、そして、県、対馬市と3者、三位一体となって、今後も一生懸命に取り組んでまいりたいというふうに考えておりますし、ただこれをとるだけじゃなくて、対策した食害魚の給食等への利用等、その有効利用も今後考えてまいりたいというふうに思っているところでございます。

○議長（小川 廣康君） 1番、坂本充弘君。

○議員（1番 坂本 充弘君） 藻食魚の漁獲なんですけれども、これのほうの研究もやっていただいて、市のほうで加工なんかができるようになってくれば、また一層この事業が有効なものになってくると思いますので、よろしく願いいたします。この件はこれで終わりたいと思います。

最後に、現在のマグロの状況を、現況までで結構ですので、説明ができれば、よろしく願いいたします。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） マグロの状況につきましては、日本のほうは枠の拡大について、世界的な機構の中で申請をしたということでございますけども、いろんな反対国からの意見もあって、増量がされなかったということだけ私のほうは聞いております。

詳しいことにつきましては、担当部長のほうに答えさせます。

○議長（小川 廣康君） 農林水産部長、西村圭司君。

○農林水産部長（西村 圭司君） 私のほうから今わかっている範囲でお答えをさせていただきます。

太平洋クロマグロの資源管理は、現在、第4管理期間に入っていますが、沿岸漁業の第4管理期間は平成30年7月から平成31年3月までの9カ月間となっております。これは、これまで管理期間が7月から翌年6月までであったものを、第5管理期間から、4月から翌年の3月までに切りかえるために3カ月間少なくなったものでございます。

第4管理期間の沿岸漁業の漁業配分量は、30キロ未満の小型魚は全国で1,528.7トンであり、うち長崎県が632.8トン、うち対馬海区は漁船漁業が335.38トン、定置網漁業が14.9トンの計350.28トンでございます。30キロ以上の大型魚は全国で1,125.2トン、うち長崎県が152.5トン、うち対馬海区は漁船漁業で4.27トン、定置網漁業で8.74トン、計13.01トンとなっております。

現在までの漁獲量は、対馬海区の平成30年12月までの漁獲量は、小型魚、11月末現在で、12月3日の速報値として57.6トンの消化率で16.4%、うち漁船漁業が54トンの消化率で16.1%、定置網漁業が3.6トンで消化率24%。大型魚は、これも12月3日の速報値ですけど、7.4トンで消化率が57.1%となっております。うち漁船漁業が1.2トンで消化率28.3%、定置網漁業が6.2トンで消化率が71.2%ということで聞いております。

以上でございます。

○議長（小川 廣康君） 1番、坂本充弘君。

○議員（1番 坂本 充弘君） ありがとうございます。市長におかれましては、規制の中で本当に大変だとは思いますが、県の要望等のときには、この件も対馬市のほうに拡大、漁獲枠が増大できるように一層の努力をしていただきたいと思います。と思っております。

時間が参りましたので、これで新政会の質問を終わらせていただきます。ありがとうございます。

○議長（小川 廣康君） これで、新政会の会派代表質問は終わりました。